



第16回記念のつどい「今こそ、平和への祈りを！」

講談交えた講演と津軽三味線に感動！ ～190人が集う～

バチをたたきつける激しい津軽三味線の音でつどいは始まった。当初予定されていた久保比呂誌さんに代わり演奏してくれたのは、新進気鋭の津軽三味線奏者の中村卓也さん。津軽よされ節の演奏が終わり、中村さんが「18歳です」と自己紹介すると、会場から「ウォー」

という歓声が上がった。

「よされ」は「世去れ」も意味していて、悪い「世は去れ」と歌う。津軽あいや節、青森民謡メドレーの次は、なんとリベルタンゴ。津軽三味線でアストル・ピアソラの名曲を聴くとは。続いて「春の海」。宮城道雄が、瀬戸内鞆の浦の穏やかな海をイメージして作曲したといわれるこの曲を津軽三味線で聞くと、静かな瀬戸内と荒々しい津軽海峡の海が思い浮かぶ。最後に津軽じょんがら節。短い時間だったが、津軽三味線のいろいろな音を堪能できた。中村さんは東京へ活動の中心を移すそうで、また西神へ来てもらって、もう少し長い時間演奏が聞けるとよいと思った。



休憩の後は、神田香織さんの講演「はだしのゲンを語り続けて38年、今思うこと」だ。神田さんの生い立ち、講演師を志したいきさつから話が始まった。サイパン旅行で訪れた「万歳クリフ」で戦争の悲惨さに思いを寄せ、その悲劇を語りたと思ったこと、チェルノブイリ、福島原発事故を語り継ぎたいという気持ちから新作講演をやるようになり、その一つとして「はだしのゲン」を語るようになった。

講演「はだしのゲン」は、照明・効果音などを伴うかなり大掛かりなもので、今回はスタッフを必要とする部分抜きで、神田さんの語りだけで行われた。原爆を投下したB29の爆音、原爆爆発に伴う暗闇など、神田さんは巧みな語りでそのシーンを説明した。それとともに、昔、漫画で読んだ情景が目に浮かんだ。被爆直後に、一瞬にして黒い炭になってしまったおばさん。ガラスの破片が全身に刺さりキラキラと日の光を反射しながら、シャリシャリとガラスの擦れる音を出しながら歩く被爆者。皮膚がむけてつららのように垂れ下がり、両手をあげて幽霊のように歩く人々など、神田さんの語りの臨場感はすさまじかった。漫画を読んだときより想像力をかきたてられ、胸に迫るものがあった。私と同じように話芸の描写力に驚いた方も多かったのではないかな。

津軽三味線の演奏、講演師の話芸、共に私たちにとって大切な想像力をかきたてられる刺激的な記念のつどいだったと。  
(榎野台 K H)

## 募金のご協力 ありがとうございました

5月20日の16回記念のつどいで活動募金をお願いしましたところ、50,763円が集まりました。皆さまのご厚意に感謝いたします。

### ◆5月のつどい 5月19日(日)

「外国人にとって、日本は？」

松坂真帆さんに聞く (TRY 外国人労働者・難民と共に歩む会)

西区文化センター2階第1会議室 14:00~16:00

※詳しくはチラシをご覧ください

### ◆6月のつどい 6月16日(日) 内容は次号で

**Act Now 1(イ千)の日行動にご参加を!**

★毎月一回、西神中央駅前「改憲 No! 九条壊すな!」のアピール行動を続けています

★次回は 6月1日(土) 16:00~17:00

## 「個」が主役になれる「みんなの図書館」をめざして

みなさんは、「みんなの図書館」というのを聞いたことがありますか？

本を通して人の交流が生まれる「まちライブラリー」の一形態であり、一箱本棚オーナー制度の私設図書館のことです。本棚オーナーは、約30cm四方の本棚を借りて好きな本を並べます。個性豊かな本棚が並び、みんなで作り育てるコミュニティライブラリーです。

多世代が交流でき、「個」が主役になれる地域の居場所を西神につくりたい！友人とともに「トナルバ」という団体を立ち上げ、活動を始めました。誰かが誰かのそばに寄り添える「隣る場」、そこに集う人の夢や思いが形「と成る場」という意味を込めています。

とはいえ、このニュータウンで物件を探すのは至難の業です。

そこで先日、お薦め本を持ち寄り、紹介しあう「推し本推し活ライブラリー」というイベントをプランティで開催してみました。自分の好きな本や地域での活動を思い切り「推し」てもらいます。POP を書いたり、本を並べたり、全て参加者の皆さんが「主役」となり、見事な本棚を完成させてくれました。団体、個人あわせて45組の参加、集まった本は171冊。新たな本や人との出会いを生みながら、赤ちゃんからお年寄りまで500名を超える来場者で賑わいました。

本という媒体を通して、人と人はこんなにつながりあえるんだ…「好き」を語る顔は本当に素晴らしい。イベントを終えた今、そんな光景があふれる常設図書館への思いを一層強め、読書会やイベントを重ねながら、空き家などの場所を探しています。

私が大好きな憲法13条「すべて国民は、個人として尊重される」

自分が暮らす地域の人たちと一緒に、日常の中でそれを実践するのが私の楽しみであり、平和活動であり、夢でもあります。 (美賀多台 羽田)

## ジョー 句

### お題「坂」

ゆっくりと 景色楽しむ 下り坂 (空耳)

### 自由題

ガザ発の地獄 世界は 見てるだけ (伝伝)

買わぬなら 値上がりもせず イージス艦

(防衛省)

6月のお題は「古墳」 [y-onishi@live.jp](mailto:y-onishi@live.jp)

に投稿お待ちしております。

## 憲法9条は死んだか

憲法9条は1954年の自衛隊創設により非武装という歯止めを失った。2015年の新安保法制では集団的自衛権の行使を一部容認し、自衛隊に他国間戦争の一方に加担する道を開いた。2022年の安保三文書ではミサイルによる他国領域への攻撃を容認し「専守防衛」を骨抜きにした。「戦争放棄」と「戦力不保持」の9条は、これらの実質的改憲によってもはや「死んでしまった」という学者もいる。

それでも、自衛隊が他国の戦争に出動するのは「わが国の存立が危機に陥り、国民の生命、自由及び幸福追求の権利が根底から覆される明白な危険があるとき」に限るとの制約をおき、その出動には国会の承認もいるとの規定を存続させている(自衛隊法76条1項二号)。この規定は、いざ台湾有事となったとき、内閣が米軍からの要請に応じて唯々諾々と自衛隊を出動させるのを、主権者である国民が国会を通じてチェックするためのものである。自衛隊創設以来ずっとたてられてきた憲法9条がそのよれよれの身体でふりしぼる残照のようなものかもしれない。

ところが、この4月の日米首脳会談では、米軍と自衛隊の指揮統制機能の統合強化の方針を打ち出した。ぶっちゃけて言えば、台湾有事の際、米軍は自衛隊を全面的指揮下におき、望むまま「必要最小限度」など顧慮せずにこき使う仕組みで、日米両軍の共同作戦計画の総仕上げというべきものである。ここまで整えた準備態勢にあって、自衛隊が台湾有事に出動しないということが考えられるであろうか。いや、米軍から出動要請がきたとき、わが政府は「存立危機」の要件判断、国会の承認など憲法9条が戦争回避のために設けたチェック機能を巧みに回避し、自衛隊をただちに米軍の指揮下に出動させようとするであろう。そうやってしまえば、憲法9条はまだ生きているといえるだろうか。 (美賀多台 伊東武是)

2024年5月発行：西神ニュータウン9条の会

[HP] <http://www.ne.jp/asahi/seishin/9jyonokai>



HPへリンク